

自然観察NOW

野幌森林公園自然情報

2009.5.10 No.2

北海道ボランティア・レンジャー協議会

ユリ科エンレイソウ属

公園内には、エンレイソウ、ミヤマエンレイソウ（シロバナノエンレイソウ）、オオバナノエンレイソウが咲いています。花ことばは「奥ゆかしい心」とのことですが、春を代表するこの花たちについて、調べてみると興味がつきぬ面白いことが沢山あります。

◆属名

属名 *Trillium* は3つのユリという「3を基数としたユリ」意味です。葉が3枚、萼3、花弁3（エンレイソウは萼のみ）雄しべ6(3×2) 雌しべは1つですが、先が3つに裂けていて、各部が3の基数になっています。

◆語源

エンレイソウは漢字名で延齡草で中国では「延齡草根」という胃腸薬として用いられるところからきたとの説があります。日本でも食べ過ぎ、食あたりに根を煎じて飲ませ、命拾いをした例もあって延齡草と命名されたとの説もあります。しかし、エンレイソウは有毒植物とされ、山菜と勘違いして食べると激しい嘔吐に見舞われます。薬草としての処方は専門の漢方医でなければなりません。

◆分布

エンレイソウ属は全部で40数種あり、北アメリカ、東アジアに分布しています。日本には3種あり北海道から九州まで分布しています。北大の植物園では、世界の21種110系統が保存されているそうです。

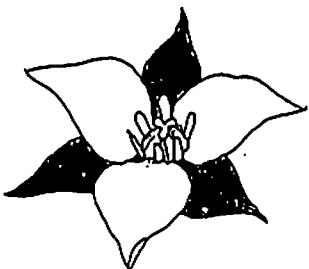
◆種間雑種

エンレイソウ属は種間雑種ができやすく、例えばヒダカエンレイソウはシロバナノエンレイソウとエンレイソウ、トカチエンレイソウはオオバナノエンレイソウとエンレイソウとの雑種です。

このほかに雑種はシラオイエンレイソウ、トイシエンレイソウ等があります。

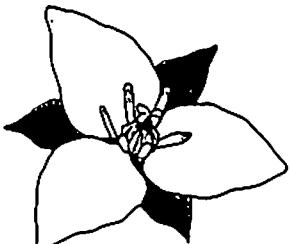
◆ミヤマエンレイソウとオオバナノエンレイソウの違い

ミヤマエンレイソウ



花弁はがく片とほぼ同長で、
どちらも先端が鋸くとがる。

オオバナノエンレイソウ



花弁はがく片よりはるかに長く、
どちらも先端は鋸くとがらない。

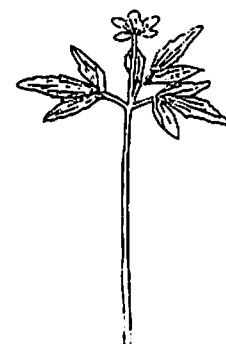
図: 『とき検索表』(エコ・ネットワーク)引用

観察ポイント

【キンポウゲ科】

◆ニリンソウ

一斉に咲きました。キンポウゲ科アネモネ属の多年草です。普通は一本の茎に花を2個つけるために二輪草の名がつけられましたが1花、または3花つけることもあります、花が同時に2個開くことはまれで、先の花が高くのび咲き始めるとき、もう1個は蕾のままことが多いです。咲いている白い花は花びらではなく、萼が花びら状になったものです。数はすくないですが緑色の萼片を持ったミドリニリンソウもあります。探してみましょう。



◆ヒメイチゲ

漢字名を「姫一華」と書きます。この時期咲く花の中で、細い茎と繊細な花や葉はなんとも頼りなげです。学名 *Anemone debilis* の *debilis* は「弱小な、か細い」の意味で的を射た表現です。和名でのヒメ（姫）のつく植物を図鑑で探してみるのも面白いですよ。

【雌雄異株】

◆ヤチダモ

雌雄異株の雄株の雄花がコブのように膨らんでいます。ヤチダモは森の中で高木が目に付きます。そこで、フクロウがこの木の上で、人間界に近づく悪魔を見張ったというアイヌの伝説があります。ヤチダモの材は弾力性、耐久力があって木目も美しいので建築材や家具材、運動用具材（アオダモと共にバット材として）に用いられています。

◆カツラ

春の芽吹きのこの時期、紅色に染まったように見えます。これは新芽のてる前に小さい紅色をした花が咲くのと、新芽そのものが紅色をしているためです。カツラも雌雄異株です。雄株の芽吹きは雌株よりも紅色が濃く、そのため緋桂と呼ぶこともあります。

【さえずり】

◆ウグイス

ウグイスのさえずりは春を実感します。ウグイスのさえずりは勿論オスで、繁殖のためメスを誘うためと、縄張りを宣言することにあるといわれています。

また、繁殖期に入った雄は、なわばりの上空をタカが飛んだり人がなわばりに近付いたりすると、さえずりとは別けたたましい鳴き方をします。これは「ウグイスの谷渡り」と呼ばれ、一種の警戒音であると考えられています。

地球環境用語

北海道環境スピリッツ

「3つの心」を大切にしよう。 その2

私たちは「もったいない心」を大切にします。ものが無駄になることを惜しみ、限りある資源を大切にし、省資源や省エネルギーに努めます。

・ごみ減量、再使用、再生利用といった3つのRの取り組みを心がけます。

・上記の3Rに新たな3つのRの視点を加え廃棄物の廃棄削減や資源の有効利用を行います。